伊丹市立総合教育センターだより

総合教育

平成30年(2018年)4月13日号(№186)

「　教師としての幸せ　」

伊丹市立総合教育センター
所長　太田　洋子

皆様こんにちは。このたび、伊丹市立総合教育センターの所長として着任しました太田です。これから、総合教育センターの使命である「教職員の資質の向上」を目指し、力を注いでまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、私は3月31日まで、中学校の教員としての日々を送ってきました。退職の日が近づきなんとなく慌ただしい３月のある日、市内の私立幼稚園の卒園式に出席しました。そこで、保育士をしている教え子と出会ったのです。帰り際に、「先生の退職をお祝いしたいからってみんなを集めるね。」と言ってくれました。

しばらくして、「3月31日に、なったから先生来てください。」との連絡がありました。30日が金曜日だったので、その日のうちに学校の荷物をすべて片付け、最後となった勤務校とのお別れは済ませました。そして31日、41歳になった教え子たちは、それぞれ、仕事のこと、子育てのことなど様々な悩みを抱えていました。でも、集まった時には、皆、中学時代の姿に戻ります。いくつになっても同窓会とはそういうものなのです。中には東京や愛知など遠方から駆けつけてくれた教え子もいました。

「先生、こんなことして怒られたよ」「あの時、先生にこんなふうに言ってもらった」と、私はあまり覚えていないのですが、次々とそんなことを話してくれます。「その頃、みんなをそんなに叱ったかな？」と言いながら楽しいひとときが過ぎていきました。一抹の寂しさの残る教員最後の日を、私の教師としての分岐点となった30代の時に担任した教え子達と過ごせる幸せに浸っていました。

帰りの電車の中でふと気づいたことがありました。「そうだ、私がたくさん叱ったというよりも、私がたくさん関わりを持った教え子たちが今日は集まってくれたんだ」と。そして、「色んなことがあったけど、教師を続けていて本当によかった。」と心から思いました。こうして、私の教員生活は終わりの時をむかえたのです。

今年も39名の新任教員を伊丹に迎えました。「さぁ頑張るぞ！」という意欲に満ちあふれています。子どもたちのことを本気で思い、本気で一緒になって汗をかいて毎日を過ごす。その姿が子どもたちを変えるのです。

色々厳しい状況もあると思いますが、これからの伊丹の教育を担う先生方には、教師の楽しさも感じてもらいたいと思います。でもそれは、すぐには来ないかもしれません。教育の成果が出るのは、遠い未来かもしれませんから。

子どもの力を伸ばす授業づくり ～授業の当たり前を見直す～

育成すべき資質・能力の柱

- 子どもが何を知っているか【知識・理解】
- 子どもが知っていることをどう使うか【思考力・判断力・表現力】
- 子どもがどのように社会と関わりよりよい人生を送るか【学びに向かう力・人間性】

☑ めあて

学習指導要領をふまえ、子どもにどんな力がつけばよいか、何ができるようになればよいかを明示する。

子どもに
何を学ぶか
を意識させる。

☑ 教える

・本時の学習の基礎的なことは、教師がしっかりと教える。
・教材・教具を工夫しながらポイントやコツなどをおさえ、子どもたちにわかりやすく説明する。

☑ ふり返り

子どもにこの授業で
何を学んだのか
を確認する。

「楽しかった。」といった感想になるのは良くない。「○○とはどういうものなのか、どういうことがわかったのか」を記述したり、説明したりすることが大切。

☑ 考えさせる

○ 一人学び

習得した知識・技能等を使い、自分の考えを持たせる。

○ 学びあい活動

自分の考えや集団の考えを発展させるために、子ども自身がペアやグループ活動でお互いに意見を出し合ったり、交流したりする。

○ 全体学び

学びあい活動で新たな気づきや疑問等を全体に発表したり、聴いたりすることで、自分の考えを深めさせる。

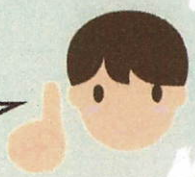
☆ 学びの「見える化」

「思考ツール」や教材・教具を活用し、比較や分類、類型や関連づけ等をおこなう。

平成３０年伊丹市議会（３月定例会）における質問について

平成３０年伊丹市議会（３月定例会）で、「教育のまち伊丹への見解」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】
教職員は児童生徒と向き合うことができているか。



【答弁内容要約】（教育長答弁）
（前略）
まず最初に「教員自身が児童生徒としっかりと向き合うこと」についてですが、今の学校は、以前に比べ教育課題も多く、保護者からの苦情等への対応や、調査・統計への回答など、実に多くの業務を担っています。

本来、学校は、「学力」をつけるところであり、教員の本務は「授業」であります。分かる授業を通して、一人一人の子どもを「自立」させることが学校の本務です。

そこで、議員ご質問の「これまで、子どもとどのように向き合い、どのように時間を確保してきたのか」についてですが、「向き合い方」については、「普通の教師は教科書を説明する。優秀な教師は教科書を理解させる。本物の教師は子どもの心に火をつける」といった言葉がありますように、子どもの心に火をつけることのできる教師の育成を目指してまいりました。（中略）子どもにとって最高の教科書は教師自身であり、できるだけ多く、子どもと触れ合い、子どもに情熱を持って接することが一番の教育だと考えています。

「向き合い方」を高める１つに、指導力の向上があるのですが、校内研修の充実を図ったり、伊丹市教育委員会指定の研究発表会を実施したりするなど、「授業改善」に最も力を注いでまいりました。また、総合教育センターにおける様々な研修の充実も図ってまいりました。

「向き合う時間の確保」につきましては、給食費の公会計化、通知表や指導要録の電子化、調査報告の精選、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・特別支援教育支援員の配置、コミュニティスクールの導入等に取り組んでまいりました。

しかし、これで十分かといいますと、決してそうではありません。教員が、できるだけ多く、子どもと向き合える時間を確保するために、これからも「行事の見直し」や「業務の仕分け」など、「教員の働き方改革」に取り組んでまいります。（後略）

発　行　　伊丹市立総合教育センター
所在地　〒664-0898 伊丹市千僧１丁目１番
月～金　　9:00～21:00 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482
土　　9:00～17:00
休館日　日曜・祝日、年末・年始　　総合教育センターHP　http://www.itami.ed.jp/